

エリスロポエチン（造血ホルモン）の投与時期について（2007/2/20）

#.9

Name:	ハルちゃん	Age:	11歳	■投与開始時の BUN/CRE	135 / 6.6
■薬剤名	エポジン		■投与時猫体重		

■開始年月日～終了年月日（投与回数／量） PCV／HCT の変化
2006.10.27～2006.11.24（週 2～3 回／体重による規定量） 10.0%→28.0%
■抗体について：
たぶん出来ていない
■他の貧血対策：
ペットチニック

■飼い主さんの感想

エイズ発病にともなう腎不全でした（腎不全の発覚は 2006 年 8 月 23 日です）。

そのためか貧血の治療は輸血も含め消極的で、エポジンを投与してもらえる病院を探すはめになりました。やっと見つけた病院も「他の猫は使っていない」そうで、1箱（10アンプル入り）を最初買い取ることが条件でした。

ちなみにお値段ですが1箱15750円、あとは接種ごとに再診料840円と注射料1050円が掛かりました。

アンプル自体は見えていませんが薬価から推測するに一番少量のものだと思います。

エイズのため骨髄抑制が起きている可能性が高いこと、また腎自体の繊維化もかなり進んでおり、十分な効果を得るのは難しい、と事前に言われていましたが思いのほか反応は良かったと思います。

2006年11月半ばからは腎不全悪化のほか口内が潰瘍化して食べることが出来ず24日を最後に通院はやめて、自宅での輸液のみとなりました。

腎不全発症1ヶ月前にはヘモバルトネラで極度の貧血になっていますが、抗生物質投与後1週間で 12.3→31.6に回復しており、腎不全でない状態でならかなりの造血力があつたものと思われま

食事…KD缶をメインに療法食ウェットを強制給餌。

治療内容…コバルジン 1袋／1日、輸液 ソルラクト200～250CC・内服プリンペラン液・吐き気止めとしてプレドニン（半錠）／1日、口内炎対策及び食欲増進 ホメオパシーのレメディ各種コロストラム

★エリスロ抗体についてですが臨床獣医師向けの雑誌「SA Medicine 39号」には「はじめは反応性もよく貧血の改善に効果的であるが、すぐに反応性がなくなってしまうことをよく耳に

この現象は抗rHuEPO抗体ができるためであると思われていて、その時点でrHuEPOの治療をあきらめてしまう場合が多いようであるが、多くの場合が鉄欠乏症や造血栄養素（B12や葉酸）の欠乏によるものであることを知っておくべきである]

[抗体誘導作用がもっとも重要な副作用であり、rHuEPO投与を受けた動物の約30%で生じると考えられている]の記述がありました。

《じいや補足》

感想欄に書いてくださった臨床獣医師向けの雑誌「SA Medicine 39号」の記述は、とても興味深いものだと思います。

3つの病院に通ったそうですが、キドナについて知らない病院がそのうち2つ。ACE阻害薬についてはひとつの病院が効果よりマイナスの方が大きい、2つの病院は早い段階なら有効と判断していたそうです。

自宅での輸液も許可をもらうのが大変で、「念書も書くし保証金払ってでもお願いしますと号泣して頼んでやっと出来る様になった」そうで、納得のいく治療を受けるために奔走されたそうです。

エポジンを1箱で購入したとのこと…。これは病院側と薬問屋さんとの問題もあるのですが、ハルちゃん以外には使うネコさんがいないからこそその1箱買いになったのでしょうか。エポを処置をしてくれる病院がなかなか見つからなかったということは、獣医さんにも「使った経験がない」という人が以外に多いのかもしれない。

そういう状況のなかでハルちゃんのベストを探した飼い主さんには頭が下がります。